

## 国語科学習指導案 古典B（発展）

授業日時	平成28年2月3日（水）第2校時
実施場所	103教室（講義棟1階）
対象学級	鹿児島県立開陽高等学校 全日制課程 普通科（中間年次8名）
使用教科書	「精選古典B」（三省堂）
授業者	松永リナ

### 1 単元名及び教材名

（三）史伝『史記』より「四面楚歌」

### 2 生徒の実態

2月より卒業年次が自宅学習期間に入ったため、本時より中間年次7名となった。全体的には控えめでおとなしい生徒が多いが、発問に対してよく考え、自分の力、またはグループで課題を解決しようと努力する生徒がほとんどである。ただ、欠席が多い生徒もあり、前時に授業を受けていない生徒に対してどこまでフォローしていくかが課題である。

### 3 教材観

『史記』は古来日本で愛読され、教科書においても長く採用され続けてきた定番教材である。文章表現が巧みで、史実と文学的創作とが交錯する歴史小説的なおもしろさに溢れている。登場人物の人間性も様々であり、現代における人間関係に顧みて考えることもできる。「四面楚歌」では追い詰められた項羽が見せる悲劇の英雄としての心情を考えさせることができる。「鴻門の会」の学習を踏まえ、リード文を参考にして、ここまでの漢・楚の攻防の概略を押さえた後、丁寧に漢文を読み下し、台詞や詩中に込められた項羽の心情を把握させたい。

### 4 単元の指導目標

- （1） 話に興味を持ち、内容を深く知ろうとする。（関心・意欲・態度）
- （2） 話の展開を理解するとともに、登場人物の心情を読み取る。（読む能力）
- （3） 基本的な句法・語法を理解する。（知識・理解）

### 5 具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
話に興味を持ち、内容を深く知ろうとするとしている。	話の展開を理解するとともに、登場人物の心情を読み取っている。	基本的な句法・語法を理解している。

## 6 単元の指導計画

### (三) 史伝『史記』

- 第1時 「鴻門の会」冒頭から第二段落前半 (90分)
- 第2時 「鴻門の会」第二段落前半から第三段落前半まで (90分)
- 第3時 「鴻門の会」第三段落後半 (90分)
- 第4時 「鴻門の会」第四段落 (90分)
- 第5時 「鴻門の会」第五段落 (90分)
- 第6時 「四面楚歌」(50分) . . . . . **本時**
- 第7時 「烏江亭」前半 (50分)
- 第8時 「烏江亭」後半・まとめ (90分)

7 本時の実際

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価の観点
導入 7分	○本時の学習目標の確認	○本時の学習内容を確認する。	・リード文を読み、漢と楚が敵対を繰り返し、やがて楚が追い詰められてゆくまでの流れをつかむ。
展開 40分	○訓読する	○音読する。	・二人で一文ごとに交互に音読させる。 【関心・意欲・態度】
	○書き下し文の確認	○書き下し文を書く。	・書き下し文を板書させる。 【知識・理解】 ・置き字「兮」を確認させる。 【知識・理解】
	○口語訳・句法の確認	○句法に注意しながら口語訳をする。	・自分が板書した文の口語訳をさせる。 【知識・理解】 ・詠嘆・反語・否定の用法を確認させる。 【知識・理解】
	○登場人物の心情理解	○項羽の心情について考える。	・故郷の楚の国の人々まで敵になってしまったと嘆息する思いを読み取らせる。 【知識・理解】 ・周りの生徒と話し合わせる。 【関心・意欲・態度】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔発問〕「漢皆已に楚を得たるか。是れ何ぞ楚人の多きや。」には項羽のどういう思いが込められているか。</p> </div>		
	○登場人物の心情理解	○項羽の心情、左右の心情について考える。	・項羽の無念さ、左右のいたわしくて見られない心情を読み取らせる。 【読む能力】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔発問〕詩を詠んだ時の項羽の心情はどんなものか。その場にいた左右の心情はどんなものか。</p> </div>		
	○故事成語「四面楚歌」の理解	○「四面楚歌」の意味について考える。	・本文中の意味と現代の意味を発表させる。 【知識・理解】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔発問〕「四面楚歌」の本文中の意味と現在の意味はどう違うか。</p> </div>		
まとめ 3分	○ 本時のまとめと次時の予告	○重要事項を確認する。	